

自転車女子・垣田真穂(松山学院高出)

持久力武器に  
夢のメダルへ

小中学時代はサッカー少女だった。パリ五輪の自転車女子トラック種目の4000メートル団体追い抜き(4人とマディソン(2人))に出場する垣田真穂(19)は早稲田大、松山学院高出。彼女の強みである持久力はサッカーで培われたといい、「今の自転車につながっている」と強調する。

1歳上の兄と同じ地元・北九州市のサッカークラブで、小学2年から男子に交じってボールを蹴り始め

た。クラブには自転車でもいい、「なぜか、ゆっくり走ることができず、全力でこいでいた」と笑う。ランニング練習では「いつも全力で一番を取りにいっていった」と持ち前の負けず嫌いを発揮した。

小学4年の時、トップアスリートを育成する福岡県の「タレント発掘事業」に応募。高倍率をくぐり抜けて合格し、さまざまなスポーツを経験した。さらに、中学1年だった2017

サッカーに夢中になった中学時代の垣田真穂(家族提供)



年、有望選手を発掘するスポーツ庁などの「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」に挑戦した。自転車競技に適性があると

分かり、垣田は「びっくりした。そんな競技がある」とすら知らなかったのだと振り返る。

早速、結果が出た。中学3年の時、サッカーと両立しながら、自転車の全国大会で優勝。サッカーか、自転車か。高校入学を控え、大きな決断を下す。「小さい頃からの夢がオリンピックでメダルを取ること。サッカーでは県代表止まりで、なかなか上にいけない。自転車の方が自分の

夢に近づけそうだった」。親元を離れて全国屈指の強豪・松山学院高に進み、本格的に自転車へ転向した。持久力に自信がある彼女をもってしても「こんなにきつい競技があるのか。もうやりたくない」と思いながら、毎日練習していた。だが、徐々に競技の魅力にとりつかれ、「自分が頑張った分だけ結果に表れる。勝ったときのうれしさがやばかった」と充実感を覚えた。

6日夜(日本時間7日未明)、4000メートル団体追い抜きに登場する。空気抵抗を最も受ける先頭で一番長く走り、他の3人を休ませる役割を担う。「高校3年間を過ごした愛媛の人に、感謝の気持ちを走りで伝えたい」。持久力が問われるポジションで、小さい頃からの夢を実現させる。(パリ愛媛新聞＝渡部竜太郎)